

令和4年度 第2回 富塚中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和4年9月5日（月） 13時30分から15時00分まで
- 2 開催場所 富塚中学校 2階会議室
- 3 出席者について 別紙参照
- 4 傍聴人 1人
- 5 熟議事項

（1）～これからの富中コミスクについて～

グループ討議（テーマ：『持続可能な富中コミスク』）

- ・ A（山口、深田、水野、仲村）
- ・ B（松澤、村松、野嶋、森光、安間）
- ・ C（行森、鈴木、西村、遠藤、加藤）

（2）その他連絡事項

- 6 会議録作成者 CSディレクター 岩邊 三幸
- 7 会議記録

司会の松島から、委員総数10人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

また、島田委員から山口委員を議長に推挙する旨の説明あり、全員異議なくこれを選出した。

（1）これからの富中コミスクについて

グループ討議（テーマ：『持続可能な富中コミスク』）

（グループA）

- ・ コロナ禍で地域ではストップしている活動がたくさんある。やろうとは思っているが、3年という長い月日が経っているので、なんとか継承できるようにしたい。（仲村委員）
- ・ 子ども達が本来小学校で聞いてきている地域のことが（「富塚散歩」のような）、もしかするとやれずにいて、知らない中で次のステップにきているかもしれないという不安もある。（山口委員）
- ・ 学校の中では、ストップしている活動もあり残念なところもあるが、新しくタブレットを活用したり、リモートができることで以前にはなかったような方法で、もう少し遠くの人たちのお話を聞いたり質問をしたりと、新しい形の学びも増えてきている。（深田）
- ・ CDの方には年度初めから色々な方面と連絡をとり、サポートをして頂き、大変助かっている。担当者が代わってもそれらを継続できるように業務の資料作り等、考えていきたい。（水野）

（グループB）

- ・ 協働センター側のボランティア活動はここ最近増えているが、富中の生徒は参加する人も多い。学校側から子ども達が積極的に参加したいと思っているということがわかり、流石だなと思っている。（野嶋）

- ・ コロナ禍で子ども達も色々なことで我慢しているように見える。富塚の子は真面目というイメージに植え付けられ、行動を制限している部分もあるのではないかな。そういう部分を大人が少し緩めてあげられたらと思う。(安間委員)
- ・ 地域は学校のためにやれることはできる限りやりたいと思っているが、それを学校側と話し合いながらどうバランスを取っていくのが課題。CDとしてはもっと積極的にやっていきたいと思っているので、学校側も受け入れて頂き、遠慮なく利用して頂ければと思う。(松澤委員)
- ・ コロナ禍以前に良かった活動などは徐々に戻していき、子ども達が参加できるボランティア活動を継続できるようにしたい。(森光委員)
- ・ 今の若者の離職率が高いということから、職場体験のような活動でもっと踏みこんだ内容の活動をし、深く知る機会を持てればいいのではないかな。(加藤委員)

(グループC)

- ・ 今年度赴任して来て感じたのは、富塚中のコミュニティ・スクールは他校と比べてもすごく盛んで、CDの方達の支援も積極的である。逆に最初はどういう活動をして頂けるのか分からない部分もあったので、年度の初めにCDの方達と顔合わせする機会を持てればと思う。(西村)
- ・ 持続可能という意味でも、CS活動に関しては内容をシステム化する等資料を残していければいいのかなと思う。(遠藤委員)
- ・ CDの方達には学校のTS(総合)の授業での活動に協力して頂いているが、学校行事と重なり、教員自身なかなか時間が生み出せない中で非常に助かっている。(鈴木)

グループ発表を受けて、委員から以下のような発言があった。

- ・ 学校と地域でもっと気軽に話し合う機会を作って頂きたい。(安間委員)
- ・ 地域として何かしたいと思っても、生徒が主体で考えていかなければならないのが学校であり、学校の方から発信して頂く中で、私たち地域が関われることをしていくのがお互い一番いい形ではないかな。地域の方もお願いされるばかりではなく、自身が楽しんで学校と取り組むようになれば、もっといい形で繋がっていくのではないかなと思う。(山口委員)
- ・ CDの方達がうまく学校と地域を繋いでくれていると思う。あくまで学校主体であるので、学校の負担が軽くなるように地域の協力が必要になるので、CDの方達にはバランスをとりながらやっていただきたい。(森光委員)
- ・ 学校と地域がお互いに何かしてあげようと思う関係を構築することが大切であり、その上で自分自身が楽しみながら活動していければいいのではないかな。(野嶋)
- ・ 富塚中のコミュニティ・スクールも六年目に入る。CDとして学校に関わる活動の骨子は、なんとなく落ち着いてきている。富塚中は早くから「SDGs」を取り入れ、それを軸にして活動している。地域の方も色々やりたいことがあるだろうが、学校側とうまく調整しながらやれたらと思う。(山口委員)
- ・ 学校行事とボランティア活動が重なり参加できなくなってしまうこともある。学校側と地域側の年間を通しての活動の見通しを事前に共有できればいいのではないかな。(村松)
- ・ まずは課題を明るみにして、それに向けた解決策を皆さんがそれぞれに受け持つ。委員の皆さんは人脈もあり、解決策も色々あると思うが、学校の現状と照らし合わせ、学校側と連携し

協働して取り組んでいく。新規のアイデアもいいが、過去失われた時間を戻しながら、学校活動の現状を踏まえ、先生方と意見共有し、その中で地域ができること、実際に活動に移せる具体的なものを探していく必要がある。(島田委員)

- ・ 子ども達は小・中・高で地域に対する見方が変わってくる。高校生になると地域外の活動が増え、客観的に地域のことを見られる能力がついてくる。地域の住民として、どういうふうに関われるか、小中学生との交流をどのように形作られるか。持続という意味では高校生が一つの重要なキーワードになってくるのではないかと思う。(島田委員)
- ・ 今後世代も代わり、コミュニティ・スクールに関わる人も意義も変わってくる。「持続可能」という意味では、小中高との連携、学校と地域が連携し、地域の特性、人材バンク等の情報整理をいかにまとめて引き出しを作られるか。そういったものを、システム化し次世代に伝えていくことが持続可能なコミュニティ・スクールも含めて学校活動の運営に資するところがあるのではないか。(島田委員)

(2) 連絡事項

教頭より、学習支援の為にホワイトボード設置を、夢をはぐくむ学校づくり推進協議会へ夢育やらまいか事業として意見することの報告があった。

また、9月28日(水)にアクトシティ大ホールで合唱コンクールを開催するとの報告あり、委員の皆様への参加を呼びかけた。

次回会議は、令和4年11月21日(月)午前14時30分から開催する旨の報告があった。

第2回 学校運営協議会出席者名簿

学校運営協議会委員

会 長	島 田 篤 志
委 員	森 光 隆 明
委 員	遠 藤 喜 和
委 員	仲 村 由 紀 子
委 員	加 藤 宏 史
委 員	安 間 忠 雄
委 員	山 口 明 子
委 員	松 澤 久 仁 美
委 員	行 森 瑞 恵

【欠席委員】井口 隆夫

オブザーバー

富塚協働センター主任	野 嶋 京 登
------------	---------

学 校

校 長	中 津 川 貴 一
教 頭	松 島 雄 次 郎
教務主任	深 田 貴 代
3 年主任	村 松 郁 枝
2 年主任	鈴 木 善 久
1 年主任	西 村 脩 平
ほたる学級主任	水 野 仁 美
C S ディレクター	岩 邊 三 幸

浜松市教育委員会

教育総務課	鈴 木 陽 子
-------	---------